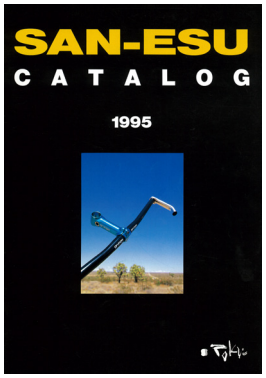
2021.3.12 配信

月刊 サンエスウォッチング Vol.33

「スピリットは grunge から」～ MTB ハンドルの変遷 ～



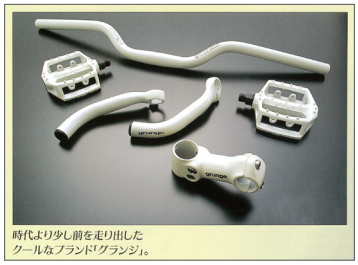
grunge は 1995 年のカタログで表紙のみに登場。アメリカ LA 近くの砂漠地帯で撮影しました。

▶1980 年代後半、東京サンエスはアメリカ「GT」ブランドの国内販売を軸に MTB（当時 GT は ATB と言った）で盛り上がっていました。それまでの「VITUS・BATTAGLIN・DACCORDI・DE ROSA・PINARELLO・BOTTECCHIA…」など、数々の欧州花形ロードバイク日本販売代理業務から、時流に乗ってアメリカンな世界にスポーツ自転車業務の柱がシフトしていました。北米に幾度となく出向き、国内も盛り上がる MTB。しかし 5 年もするとなんだか外部（＝外国 / アメリカ / 仲介）に踊らされている感が否めなくなってきます。製品についても日本人が他国規格 & 企画に合わせるという構図。（このあたりから自転車界の大手による寡占化が進んで行ったのかもしれません）

▶そんなこんなで、自分たちで何かしたい・・の思いが強くなり、デザインや機能アップを図るカスタムメイドの楽しさを国内で提供すべく、MTB 系オリジナルパーツブランド **grunge**（グランジ）を 1994 年に立ち上げました。時は既に熟し切っていたと言えます。当初はプロダクトデザインをする力量も無く、欧米ブランドから提案された製品を作る工場が持つ既製品に、少しアレンジを加えた商品の販売から始めました。ただ、ワクワクする気軽な着せ替え感覚の商品に拘っていました。

▶その頃「Club Roost GOFAST」というカジュアルなライザーハンドルがありました。既にライザーの有効性は認められていたのですが、このようなスムーズなライザーデザインを行える工場が当時少なく、方々探して辿り着いた工場に当時としてはラインの美しいライザーハンドルがあり、早速交渉し grunge ハンドルが誕生しました。その他にステムやペダルなどと共にデビューしたのが 1996 年。grunge= グランジの名前は当時サブカルチャー的人気があり現在再熱している "grunge fashion" から採りました。中でもパーツにペンキの如くベタな白色をラインナップしたのは多分 grunge が初めてだったと記憶しています。

Club Roost
GOFAST

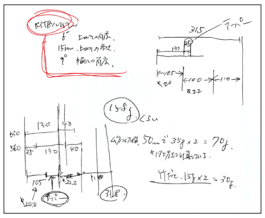


1996 年のカタログに掲載された最初の grunge 写真は白色パーツが占領しています。
時代より少し前を走り出した
クールなブランド「グランジ」。
と表現されていました。

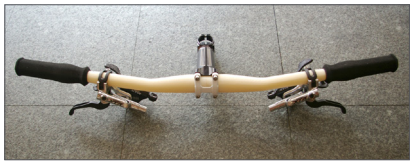
写真上）1997 年には大胆にも 120g のサーモプラスティック製のフラットハンドルを発表。
写真下）2001 年、殆ど世になかったカーボンライザーハンドル（25.4mm）を発表。
アルミではストレート・ライザー・DH と各種展開していきました。

▶ grunge からはじまった MTB ハンドルは、トップライダーにも応える製品作りでスタートした **OnebyESU**（ワンバイエス）ブランドにて、“ スマートフィット カーボンライザー ” を開発するに至ります。このモデルは当時チーム ブリヂストン・アンカーの選手が使用し、山本幸平選手は海外レースでも結果を残すことになります。

2010 年スタートの「スマートフィットシリーズ」はグリップ部分の径を小さくしたオリジナルプロダクト。裏返しても使用できるデザインも新鮮なアイデアでした。スマートフィットは OnebyESU のカーボンを皮切りに grunge でもアルミモデルとして追随します。



最初の構想でのスマートフィット。



3D ではない時代の削り出しモックアップ。

▷カーボンモデルは当時アンカーチームの辻浦圭一選手も開発にかかわり、全日本チャンピオンの山本幸平選手も欧州レースなどで使用しコントロール性と剛性を高く評価、ポルトガルでは 3位に入るなど実績を残し、後の製品開発にもかかわりました。▷小柄な女性ライダー田近郁美選手は裏返してポジションを取っていました。
左写真）山本幸平選手は、2011 年に 29 インチでも使用を始めました。
ステムやシートポストも OnebyESU。

その滑らかなライザーは通常グリップ径で幅広に設計した「マスターフィット」名でも継承しています。

▶あれから 25 年、独自のアイデアには盲目的ナルシズムも内包される場合がありそれは時に良し悪しですが、grunge スピリットは後のオリジナル製品開発にも脈々と生きづいているのです。

grunge ハンドルは「FUN」シリーズや「レンジャー」シリーズに派生し、
スピリットは B-Witch や beam それに Veno ブランドのハンドルにも受け継がれています。

● 次回、月刊サンエスウォッチング Vol.34 は 2021 年 4 月 9 日（金）の配信予定です。

TOKYO SAN-ESU CO.,LTD.